

2016 年度事業報告・2017 年度事業計画書



認定NPO法人

多文化共生センター東京

Multicultural Center TOKYO

2016 年度を振り返って

2005 年に荒川区西日暮里に開設された、外国にルーツを持つ子どもたちのための「たぶんかフリースクール」も 11 年目を迎え、2016 年度までの荒川本校、新宿校の卒業生は 500 名を超えました。子どもたちの多くが日本での高校進学を目指し、更に高校卒業後は、進学や就職し社会人としての生活を始めています。数年ぶりに訪ねてくれた卒業生はすっかり大人になり、仕事のやりがいや悩みを話す姿は、困難な中であつてもたくましいものがあります。皆、振り返って「たぶんかフリースクール」という学びの場に出会えたこと、そして、何よりも学ぶ場があつたということが、今の自分にとって、どんなに大切なことであつたかを伝えてくれています。

さて、2016 年度は、当団体にとって唯一公的支援であつた文部科学省の「定住外国人の子どもの就学支援事業（虹の架け橋教室）」が終了して 2 年目でした。生徒からの授業料と個人、企業等の皆さまの温かい支えによる運営は依然として続いています。東京都生活文化局による「東京都在住外国人支援事業助成の在住外国人の活躍推進事業」で「外国にルーツを持つ子どもの就学・進学支援のための学習サポート事業」としての助成を受けることができ、継続して子どもたちに週 20 時間の授業を提供することができました。また、教室として荒川区から無償で提供いただいている廃校の教室を継続して使用できたことは、大変大きな支援となっています。

2016 年度は、58 名の生徒が高校受験し、54 名が進学しました。また、年間の生徒数は延べ 91 名に上り、多少の増減はあるものの地域で学ぶ外国にルーツを持つ子どもたちは、確実に増え続けています。国籍も多様で、いくつもの言語が飛びかい、たくさんの楽しい交流も生まれ、教室は文字通り多文化学校です。

高校入試では、都立高校全日制が 5 教科受験となつたため、1 月実施の在京外国人枠のチャンスを活かそうと挑戦する生徒が増え、作文と面接の一層の準備が必要となりました。全日制 5 教科入試の影響は大きく、難しい 5 教科を避け、3 教科で受験できる昼夜間定時制か夜間定時制を選択する生徒が多く、子どもたちの選択肢は狭まっています。学力試験が日本の生徒と同じであることは、外国で同じ状況におかれた場合を考えれば、大変なハンディであることは容易にわかることです。子どもたちの側に立った制度の改善が望まれます。

荒川区と実施している「ハートフル日本語適応指導」でも、中学校編入の外国にルーツを持つ子どもたちの数は増加し、現場の先生との連携が求められています。また、土曜日のボランティア活動では、年間を通して学びや居場所を求める子どもたちが来ており、学校や行政の窓口からの紹介も増えています。外国にルーツを持つ子どもたちの求める数少ない学びの場を継続させていくために、団体として、今まで以上に行政との連携や支援者を増やすことが必要です。

最後に 2016 年 5 月末で終了していた認定 NPO 法人ですが、新たな申請により東京都から 2017 年 3 月 17 日に認定があり、向こう 5 年間認定 NPO 法人として活動することになったことをご報告します。

2016 年度事業報告

1. 外国にルーツを持つ子どもと家族のための教育事業

1) たぶんかフリースクール

目的

日本の中学校に入れず、学ぶ場や居場所のない子どもたち（学齢超過生と中学校卒業者）や、来日期間が浅く日本語の初期指導を必要とする子どもたちに対し、毎日通学し、日本語や教科学習ができる学びの場と居場所を提供し、最終的に高校進学につなげる。



荒川本校授業の様子

実施内容

荒川本校	新宿校
授業時間：火～金 10：00～15：50（通年） 1日5時間で週4日	授業時間：月～金 9：00～13：00（通年） 11：10～15：10（9月～翌3月） 1日4時間で週5日
年間総生徒数 58名 受験者数：32名 高校進学者数：29名	年間総生徒数 33名 受験者数：26名 高校進学者数：25名
講師数：14名、うち担任4名	講師数：13名、うち担任3名
内容：学齢超過の子どもたちを主対象に、日本語指導と教科指導（数学・英語等）、作文や面接指導等、高校進学サポートを行った。8月の夏期集中コースには、フリースクール生以外の学齢期段階の生徒も受け入れ、学校編入前の日本語の初期指導クラス、中3生向けの理科・社会クラスを開講した。 その他：日本語・数学・英語教科会、進路部会を開催し、講師間の情報共有、教育内容充実を図った。	

◆キャリア教育

企業のご支援を受けて、生徒が将来の夢を考え、次の進路につなげるキャリア教育を実施した。

- ・荒川本校 7月21日(木) 実施（参加生徒数 13名）
ギャップ原宿店、ギャップ渋谷店、
バナナ・リパブリック六本木店にて実施。
- ・新宿校 9月30日(金) 実施（参加生徒数 22名）
ギャップ吉祥寺店、ギャップららぽーと立川立飛店、
ギャップ銀座店、バナナ・リパブリック六本木店にて実施。



ギャップ銀座店ストア体験の様子

◆学校行事

土曜ボランティア、企業、フリースクール講師の協力で校外学習やスポーツ大会などの行事を行った。

- ・6月23日 避難訓練
- ・6月24日 スポーツ大会 協力:株式会社セールスフォース・ドットコム
- ・9月11日 たぶんか★ユースフェスタ 2016

共催：東京ボランティア・市民活動センター・荒川ボランティアセンター、特別協賛：UBSグループ（UBS証券株式会社、UBS銀行東京支店、UBSアセット・マネジメント株式会社）、後援：荒川区・荒川区国際交流協会



たぶんか★ユースフェスタの様子

- ・10月29日 鎌倉遠足 協力:株式会社セールスフォース・ドットコム
- ・12月17日 クリスマス会
- ・3月18日 卒業を祝う会

評価と課題

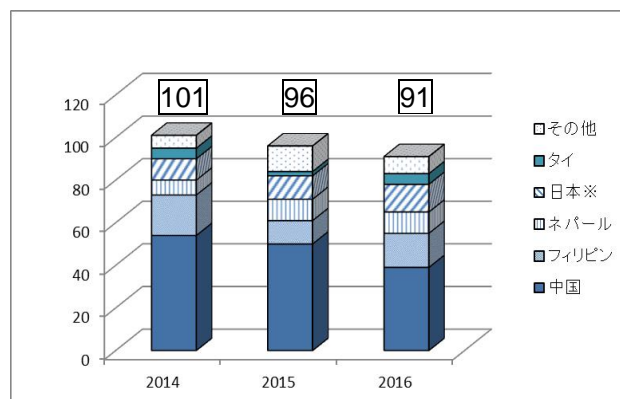
①生徒の背景

今年度は延べ 91 名の生徒が「たぶんかフリースクール」で学んだ。例年に比べ生徒数が少なく、特に上半期はなかなか生徒の数が増えなかった。そのため、レベル差があっても運営上クラスの増設ができず、生徒のレベルに合った授業を行うのが難しかった。

また、新宿校ではここ数年、非漢字圏の生徒が増え、多国籍化・多言語化してきたが、これまで中国出身の生徒が大部分を占めていた荒川本校もその他国籍の生徒の割合が増えてきている。

高校進学に向け、短期間で力をつけさせなければならぬが、多様化する生徒たちに限られたクラス数で日本語指導をはじめ、各教科でどのようにそれぞれの生徒に対応した授業を行っていくかが、今後更なる課題となる。

表 1 国籍別年間生徒数累計



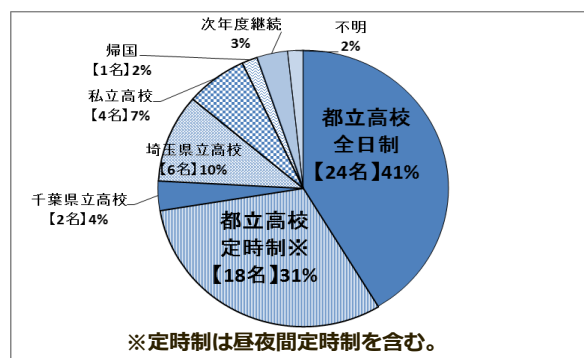
※夏期集中コースのみ参加した中3生、小・中学生、途中退学者を含む。

※日本国籍生徒のルーツ：中国、韓国、フィリピン、アメリカ

②進学先・受験方法

58 名が高校受験をし、54 名が高校進学を果たした。生徒の進学先は都立高校全日制進学者が最も多かったが、都立高校定時制への進学者の割合も全体の 31%を占め、昨年度よりも増加している。定時制進学者の中には経済的な理由から定時制を選ぶ生徒も少なからずいた。また、大多数が都内在住の生徒だが、埼玉県、千葉

表 2 受験生 58 名の進路

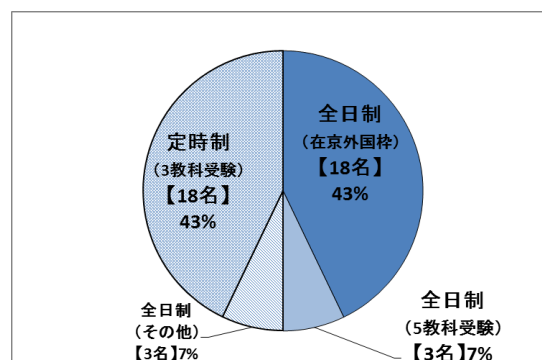


※定時制は昼夜間定時制を含む。

県在住の生徒も増えている。都立高校だけでも入試によって受験科目が作文・面接、5 教科、3 教科受験等と異なるが、それに加え、他県の入試に対応した授業内容、進路指導を行うのは難しく、講師の負担も大きかった。今後は他県の支援団体ともさらに連携しながら、生徒たちへの対応を行っていききたい。

都立高校全日制進学者のうち、5 教科受験で合格した生徒は 3 名のみでそれ以外は在京外国人枠、バカロレア入試、帰国枠の特別入試で合格している。来日して間もない生徒たちにとって、5 教科受験の壁は厚く、在京外国人枠で全日制を目指す、または 3 教科受験で昼夜間定時制、または夜間定時制を受験するといった二極化が見られる。

表 3 都立高校進学者（42 名）の受験方法



③保護者の関わり

ほとんどの学齢超過生が 3 月まで在籍し、高校進学を果たすことができたが、途中退学、または進路決定後、来なくなった生徒が数名いた。途中退学した生徒の多くは家庭が安定していないケースが多い。今年度はより保護者に子どもの教育に関わってもらうため、4 月入学の際、保護者を招いて説明会を行う等、保護者との連携を図ってきたが、随時入学のため、途中入学の生徒・保護者への説明や連携づくりが徹底されなかった。仕事が忙しく、なかなか連絡の取れない保護者もいるが、生徒が日本で安心して暮らし、勉強を続けるためには保護者の協力が必要である。今後は入学前の教育相談他、入学時には保護者も生徒と共に来校してもらおう等、保護者がフリースクールに関わる機会を増やし、連携を深めていきたい。

④キャリア教育

生徒たちは社員の方々からのレクチャーや実際の作業を通して、アパレルの仕事やブランドとは何か、また目に見える仕事以外にもバックヤードの仕事もあることを学んだ。実際の仕事を体験することで働くことや自分の将来について考えることができたとともに、学習してきた日本語を使って社員の方々と話したり、お客様対応をしたりして日本語を話すことにも自信をつけることができた。今後も自分の将来について積極的に考えるきっかけができるようキャリア教育を行っていききたい。

⑤学校行事

今年度も企業のご協力により、さまざまな学校行事を開催し、生徒たちは教室の外でも様々な学びを得ることができた。スポーツ大会では、普段体を動かす場のない生徒たちが思い切り体を動かし、生徒同士、または社員の方との交流を楽しんだ。鎌倉遠足では、実際に海や寺社、神社等を見て日本の歴史や文化、自然に触れる機会が得られた。また、「たぶんか★ユースフェスタ 2016」では、生徒たちが展示・ステージ発表・屋台の 3 チームに分かれ、それぞれが役割を持ち活動に参加することができた。授業との両立は課題であるが、今後も生徒たちが多くの人に接し、日本社会について学べる場や、自分の進路について考える機会を作っていきたい。

⑥運営面

今年度のフリースクール運営は、生徒からの授業料他、個人・企業の方々からの助成や寄付に加え、東京都生活文化局による「平成 28 年度東京都在住外国人支援事業助成」を受託できたことにより、継続して週 20 時間の授業を行うことができた。しかし、運営全体の約 3 割は個人・企業の方からの助成や寄付に頼っており、東京都生活文化局からの助成も受けられる期間が今年度を含めて 3 年間と決まっているため、先の見えない厳しい財政状況が続いている。来年度以降もこれまで子どもたちに提供してきた週 20 時間の授業時間と授業の質を落とすことなく、子どもたちに学びの場を保障していくためには、更なる行政への働きかけや支援者の拡大等、経営基盤の強化が必要である。

2) 荒川区ハートフル日本語適応指導事業

目的

海外から荒川区内の小中学校に編入学したばかりで、まだ日本語の理解が不十分な児童・生徒が学校生活へよりスムーズに適応ができるよう日本語指導を行う。

実施内容

◆通室による初期日本語指導 9:00~12:00 週 4 日・2 ヶ月

荒川区「ハートフル日本語適応指導（通室による初期日本語指導）」対象生徒たち 21 名（中学 1 年生～3 年生）が日本語を学んだ。

◆初期日本語指導終了後の補充指導 17:30~19:30 の 2 時間 週 3 日・3 ヶ月

荒川区「ハートフル日本語適応指導（補充学習指導）」対象児童・生徒のうち、16 名（中学 1 年生～3 年生）が日本語・教科を学んだ。

評価と課題

平成 28 年度荒川区ハートフル日本語適応指導（通室による初期日本語指導、補充学習指導）は、7 校 26 名の中学生を受け入れた。今年度の生徒数は過去 5 年間で最大であった昨年の 20 名を超え、年々増加傾向にある。来日時期も 4 月、9 月の新学期開始時だけでなく、学期途中に転入してくる生徒もいたため、通年にわたり通室指導、補充指導が実施された。

3 月の学年末には生徒の在籍校に赴き、その後の学校生活の様子、学校での日本語指導等、また、日本語の理解が不十分な児童・生徒を抱えた学校側の抱える問題等の情報交換をすることができた。新年度の適応指導に活かしていきたい。

3) 教育・進学相談

主に、電話または当センターでの面接による教育相談を行った。また、荒川区国際交流協会が実施する「リレー専門家相談会」に、教育に関しての専門家相談員を 1 回派遣した。

表1 教育相談件数の推移

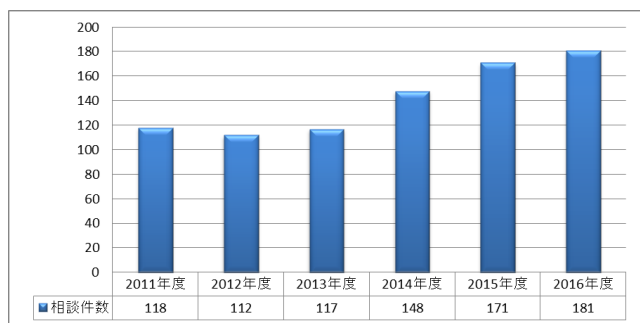
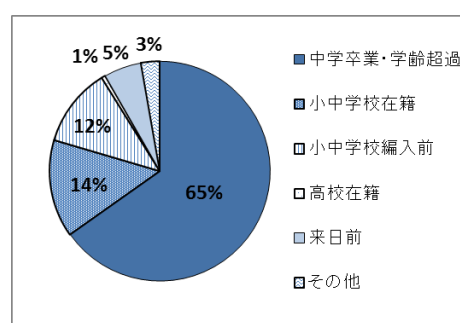


表2 教育相談者内訳



評価と課題

今年度は181件の教育相談に対応し、その数は年々増加している。そのうち65%が中学卒業・学齢超過の子どもたちの学ぶ場や高校進学に関する相談で、相談後多くが「たぶんかフリースクール」への入校につながっている。その他、学齢期段階生徒の学校編入、日本語や学校での学習に関する相談、高校卒業後の進路相談等、幅広い教育に関する相談に対応している。学校や各区教育委員会、東京都教育相談窓口等行政から紹介を受けて当センターにつながるケースも多く、教育相談窓口としての役割は大きくなっている。

4) 日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス

実施内容

「多文化共生センター東京」「カトリック東京国際センター」「多文化共生教育研究会」「CCS 世界の子どもと手をつなぐ学生の会」「武蔵野市国際交流協会」「八王子国際協会」「IWC」「OC Net」「レガートおおた」「青少年自立援助センター」「東洋大学 SPIRIT」の11団体による実行委員会が多言語による高校進学ガイダンスを開催し、そのうち2回の開催の事務局を当センターが担当した。ガイダンスでは、日本語を母語としない中学生や学齢超過の子どもとその保護者に対して、学校制度や高校進学についての具体的な情報を提供すると同時に、ボランティアやNPOによる学習支援等につなげ、ガイダンス後のフォローも行った。

7月3日（文京）、7月10日（武蔵野市）、7月31日（大田区）、10月2日（品川区）、10月9日（文京区）、10月23日（八王子市）の6回開催し、計426人が集まった。当センターが担当した2回は文京区の東洋大学にて開催し、7月に102名、11月には83名が参加した。その他、7月に新宿区未来創造財団から当センターが運営を受託し、新宿区でもガイダンスを開催した。

評価と課題

今年度も実行委員会としては計6回の実施ができた。参加者は去年よりも50人以上増えていて、必要性があることがわかる。当センターが担当している文京会場も場所を東洋大学にしてから参加人数が増えているので、このまま協力していただけるよう、東洋大学との関係を大切にしていきたい。参加者の出身国も状況も多様になっているので、それに対応できるように準備をすすめたい。

5) 親子日本語クラス

目的

外国にルーツを持つ小学生以下の子どもや保護者（大人）を対象に、ボランティアによる日本語と教科の学習支援を通じた居場所づくり。

実施内容

週に 1 回、ボランティアによる日本語や教科の学習支援を基本的に個別対応で行った。小学生クラスでは、学習の最後の 20 分を全体学習の時間として、以下に挙げる日本の行事の体験やゲームを通じた日本語学習などを行った。

実施日：毎週土曜日 13:00～15:00

参加人数：ボランティア 10 名～20 名/回 学習者 10 名～30 名/回

◆行事

5月7日 母の日の紹介と家族への感謝カード作成

7月2日 七夕飾り作り

8月6日 尾久八幡神社のお祭り

10月22日 ハロウィン仮装祭り

11月19日 東京タワー遠足

12月17日 クリスマス会

1月28日 節分の豆まき

2月25日 雛飾り作り

クリスマス会の様子



評価と課題

前年度まで中国ルーツの子どもたちが中心の教室だったが、今年度は子どもたちのルーツや年齢が多様化し、学習者数がさらに増加した。子どもたちは中国、ネパール、タイ、シリア、ベトナム、フィリピン、ブラジル、モンゴル、台湾などから来ており、様々なルーツの子どもが集まる場となった。ボランティアの参加人数も増えたものの、子どもたちの増加に追いつかず何度も個別対応ができないことがあった。また来日して間もない子どもたちが増え、年齢の低い子どもたちの日本語学習のサポート方法や年齢にあった教材の確保は大きな課題である。また、母国での学習環境もさまざまであり、学習面での丁寧な支援が必要な子どもたちもいた。週 1 回 2 時間の教室でどこまでサポートできるのか、今後考えていく必要がある。また、保護者同士が子育てに関する悩みや情報を共有するケースがあり、こうした相談に対応できる子育て経験のあるボランティアの確保も課題である。

6) 子どもプロジェクト

目的

外国にルーツを持つ中学生以上の子どもを対象とした日本語と教科の学習支援と居場所づくりによる力づけ。

実施内容

ボランティアによる日本語や教科の学習支援を基本的に個別対応で行った。受験期には、作文指導や面接練習なども集中的に実施した。また、企業や大学からのボランティアの受け入れ先としても機能した。

実施日：毎週土曜日 15:30～17:30

参加人数：ボランティア 10～20名/回 子ども 10～30名/回

評価と課題

今年度も年間を通じて、有意義な活動が行えた。夏以降は学習者が増加し、さらに受験が近づくと、机や椅子が足りなくなるほどの盛況ぶりだった。特に面接練習は、“場数を踏む”ことが何より必要なので、実践的な訓練の場として有効に機能したと評価できる。一方、課題としては、学習者のニーズとボランティア側の希望とのアンマッチ、特に理数系については需要に供給が追いつかない状態が依然として続いている。最近では親子日本語教室から引き続き学ぶ子、兄弟、姉妹での参加なども増え、これまで以上に“非受験生”が増えた。また、“居場所としての土曜日”を求めて来校する子どもも多く、多様なニーズにボランティア側のきめ細かな対応が求められている。

2. 多文化共生に関する情報提供及び人材育成事業

1) 多文化共生に関する情報提供事業

当センターの活動と理念に対する認知を高め、多くの方に賛同・支援をいただくため、ニュースレター、ウェブサイト、メールマガジンなどの媒体を使用し、広報活動を行った。

- ・ **ニュースレター**：「みんぐる」を作成し、団体活動報告を中心に年4回発行各号平均500部を配布した。
- ・ **Facebook**：「たぶんかフリースクール」の子どもたちの様子を伝え、イベントの告知などを行った。フォロワー数は1549人。(2017年度3月31日現在)
- ・ **メールマガジン**：Facebook投稿記事のまとめや、多文化共生に関するニュースやイベント情報を年8回配信した。読者数は618人。(2017年度3月31日現在)
- ・ **ウェブサイト**：団体の紹介や活動内容、イベントの告知などに活用した。また、アクセス方法に

当センターへの写真付きでの案内を載せるなど、よりわかりやすいページにできるよう工夫した。

- ・**会員メーリングリスト**：会員向けに多文化共生に関するイベントやニュースの情報提供を行った。

評価と課題

ニュースレター「みんぐる」の読者からは、「働いている職員、講師、インターンの想いを知ることができた」、「多文化共生に関する書籍を知るきっかけになった」など引き続き好評を得ている。また、Facebookの記事を閲覧している人数は、昨年度の1330人から1549人とさらに増加した。「みんぐる」、Facebookは団体の活動を広く配信する役割を果たしたと言える。

一方でメールマガジンについては、読者数は618名と、ここ数年は減少の傾向にある。ウェブサイトは、昨年度に改訂したトップページの機能を活かしてイベントやニュースなどをわかりやすく知らせることができた一方、更新の頻度をあげることが課題となった。また生徒や保護者に入試制度等高校進学に関する最新情報を届けるという昨年度の目標は達成できなかった。会員向けのメーリングリストでは多文化共生に関するニュースやイベントを知らせるといった取り組みは再び軌道にのってきたが、媒体が増えているなかでどのような内容にするか、検討が必要である。

2) 多文化共生に関する人材育成事業

実施内容

学校、行政、国際交流協会等が行う研修会・講演に計22件の講師派遣を行った。インターン受入れについては3大学から3名を短期で受け入れた。また、「東京ボランティア・市民活動センター」に運営委員、「東京都多文化共生推進検討委員会」の委員として参加した。毎月1回のボランティア講座では、毎回10名程度、年間で115名の参加があった。

評価と課題

講師派遣は教育事業が大きくなるにつれ、派遣件数が減っている。日常業務との両立が今年度も課題となった。外部への講師派遣件数は減少したが、昨年度より要望としてあがっていた団体内部での勉強会を開催することができた。活動に関わる講師・スタッフ・ボランティアを対象に災害に関する研修会を行い、災害時の対応や防災について学んだ。今後も多様なバックグラウンドを持つ子どもたちが安心して学べる場を作っていけるよう、内部への勉強会や研修会を行っていきたい。

3. 寄付・支援について

2016年度は、公的助成として東京都生活文化局の「東京都在住外国人支援事業助成」を受けることができた。一方、昨年度を超える多くの個人、団体、企業の皆様に当センターの活動を支えていただいた。外国にルーツを持つ子どもたちや当センターの活動への支援の輪が広がっている。

■ たぶんか子ども基金

経済的な理由から「たぶんかフリースクール」の授業料を負担することのできない家庭の子どもたちのために授業料を支援し、広く一般から寄付を募っており、2016年度は、個人、団体の方から838,000円の寄付が集まった。

■ 2016年度 行政、団体、企業等からの助成及び寄付 (敬称略 50音順)

- ・ アトミジャパン合同会社
「たぶんかフリースクール」生への通学交通費補助への助成
- ・ Gap Inc.(ギャップ財団)
「たぶんかフリースクール」の「キャリア教育プログラム」への助成
(ギャップ、バナナ・リパブリックでのストア体験活動及び担任制度への助成)
- ・ 株式会社セールスフォース・ドットコム
「たぶんかフリースクール」生と社員ボランティアのスポーツ大会への助成
「たぶんかフリースクール」生と社員ボランティアとの鎌倉交流遠足開催への助成
「たぶんかフリースクール新宿校」への家賃補助への助成
- ・ 東京都生活文化局
「外国にルーツを持つ子どもの就学・進学支援のための学習サポート事業」への助成
- ・ UBSグループ (UBS証券株式会社、UBS銀行東京支店、UBSアセット・マネジメント株式会社)
「たぶんか子ども基金」への助成
「たぶんかフリースクール」卒業生のインターンシップによる人材育成プログラムへの助成
- ・ リロ・ジャパン株式会社
- ・ ロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社

4. メディア掲載歴・受賞歴

■ メディア掲載

- ・ NNA 倶楽部会報「アジア通」 4月号 互いの違いを尊重する多文化共生
- ・ 荒川102 5月10日 外国人子女のための日本語・進学サポート施設
- ・ 東京ボランティア・市民活動センター ネットワーク342号
6・7月号 外国にルーツを持つ子どもたち
——多文化共生センター東京の取り組みから
- ・ 市民国際プラザ 自治体国際化フォーラム7月号
～多文化な子どもたちが共に活躍できる社会を目指して～
- ・ NHK WORLD 7月19日 Supporting the Education of Foreign Children Living in Japan
- ・ 三田評論 8・9月号 外国にルーツを持つ子どもたちにルーツを持つ子どもたちの学び
——「たぶんかフリースクール」の取り組みを通して

- ・TBS ラジオ 9月17日 人権 TODAY「たぶんかユースフェスタ 2016」
- ・毎日小学生新聞 12月6日 いろんな国の子がいるよ！②
- ・毎日小学生新聞 12月9日 いろんな国の子がいるよ！④
- ・カトリック新聞 1月1日 シリーズ「外国につながる子ども」たちの学校教育を考える
- ・テレビ東京 3月24日 すけっち #152「たぶんかフリースクール」

■受賞

- ・平成 28 年度文化庁長官表彰 文化発信部門 理事・顧問 王慧瑾

2016年度決算報告書

2016年度 活動計算書

2016年4月1日から2017年3月31日まで

特定非営利活動法人多文化共生センター東京

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1.受取会費		
正会員受取会費	467,500	
賛助会員受取会費	483,000	950,500
2.受取寄附金		
受取寄附金	5,497,488	5,497,488
3.受取助成金等		
受取助成金	23,446,464	23,446,464
4.事業収益		
(1)外国にルーツを持つ子どもと家族のための 教育支援事業	21,916,497	
(2)多文化共生に関する情報提供および 人材育成事業	690,399	22,606,896
5.その他収益		
(1)受取利息	535	
(2)雑収益	213	748
経常収益計		52,502,096
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費		
給料手当	26,630,888	
通勤費	2,960,629	
法定福利費	1,411,610	
人件費計	31,003,127	
(2)その他経費		
旅費交通費	153,959	
通信運搬費	320,011	
図書印刷費	1,167,401	
地代家賃	2,724,000	
水道光熱費	556,921	
消耗品費	355,771	
アクティビティ費	2,390,735	
ガイドンス費	36,653	
諸謝金	90,529	
支払手数料	107,772	
租税公課	838,600	
賃借料	598,133	
通学定期補助	267,500	
雑費	14,080	
その他経費計	9,622,065	
事業費 計		40,625,192
2.管理費		
(1)人件費		
給料手当	4,546,410	
通勤費	363,227	
法定福利費	398,146	
福利厚生費	8,500	
人件費計	5,316,283	
(2)その他経費		
旅費交通費	2,038	
通信運搬費	10,998	
図書印刷費	37,204	
水道光熱費	25,343	
消耗品費	15,439	
研修費	10,000	

修繕費	5,000		
支払手数料	125,857		
租税公課	4,070		
賃借料	22,327		
諸会費	14,400		
渉外費	7,000		
保険料	55,754		
相談料	96,400		
減価償却費	89,180		
雑費	44,688		
その他経費 計	565,698		
管理費計		5,881,981	
経常費用計			46,507,173
当期経常経費増減額			5,994,923
Ⅲ 経常外収益			
過年度損益修正益	35,465		
経常外収益計		35,465	35,465
Ⅳ 経常外費用			
固定資産除却損	4,968		
経常外費用計		4,968	4,968
税引前当期正味財産増減額			6,025,420
法人税、住民税及び事業税			120,000
前期繰越正味財産額			21,159,745
次期繰越正味財産額			27,065,165

2016年度 貸借対照表

2017年3月31日現在

特定非営利活動法人多文化共生センター東京

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	15,881,397		
未収金	6,040,646		
前払費用	251,333		
立替金	159,652		
流動資産合計		22,333,028	
資産合計			
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
建物付属設備	478,677		
什器備品	220,372		
有形固定資産計	699,049		
(2)投資その他の資産			
敷金	660,000		
フリースクール特定資産	8,178,756		
投資その他の資産計	8,838,756		
固定資産合計		9,537,805	
資産合計			31,870,833
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	3,906,454		
前受金	756,000		
預り金	143,214		
流動負債合計		4,805,668	
負債合計			4,805,668
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		21,159,745	
当期正味財産増減額		5,905,420	
正味財産合計			27,065,165
負債及び正味財産合計			31,870,833

2016年度 財産目録

2017年3月31日現在

特定非営利活動法人多文化共生センター東京

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
手元現金荒川	136,346	
手元現金新宿	81,786	
ゆうちょ銀行通知預金	362,087	
三井住友銀行普通預金	7,327,529	
ジャパネット銀行普通預金	6,951,411	
ゆうちょ銀行普通預金	1,022,238	
未収金		
フリースクール授業料	519,520	
ハートフル初期等指導料	438,720	
東京都生活文化局助成金	5,000,000	
その他	82,406	
前払費用		
新宿校家賃他	251,333	
立替金		
ガイダンス	7,740	
三菱財団	151,912	
流動資産合計		22,333,028
資 産 合 計		
2 固定資産		
(1)有形固定資産		
建物付属設備	478,677	
什器備品	220,372	
有形固定資産計	699,049	
(2)投資その他の資産		
敷 金	660,000	
フリースクール特定資産	8,178,756	
投資その他資産計	8,838,756	
固定資産合計		9,537,805
資 産 合 計		31,870,833
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金		
未払給与	2,692,966	
印刷代・消耗品代他	674,188	
未払税金	539,300	
前受金		
翌年度正会員会費他	56,000	
前受助成金	700,000	
預り金		
源泉所得税他	102,362	
雇用保険	40,852	
流動負債合計		4,805,668
負 債 合 計		4,805,668
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	21,159,745	
当期正味財産増減額	5,905,420	
正 味 財 産		27,065,165

監査報告書

私は、特定非営利活動促進法 18 条の規定に基づき、特定非営利活動法人 多文化共生センター東京の 2016 年度（2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）の業務監査及び会計監査を実施した。

業務監査に当たっては、理事会等の会議に出席し、必要と認める場合には質問を行い、意見を表明した。

会計監査に当たっては、財産の実在性を中心に、帳簿・証憑書類などの閲覧・照合、理事への質問等を行った。

これらの監査の結果、当法人の業務は法令及び定款に基づき適正に執行され、会計処理は、一般に公正妥当と認められる会計の方法によって適正に処理されているものと認める。

2017 年 4 月 22 日

特定非営利活動法人
多文化共生センター東京

監事 張 正賢



【参考】特定非営利活動促進法 18 条（監事の職務）

監事は、次に掲げる職務を行う。

- 一 理事の業務執行の状況を監査すること。
- 二 特定非営利活動法人の財産の状況を監査すること。
- 三 前二号の規定による監査の結果、特定非営利活動法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを社員総会又は所轄庁に報告すること。
- 四 前号の報告をするために必要がある場合には、社員総会を招集すること。
- 五 理事の業務執行の状況又は特定非営利活動法人の財産の状況について、理事に意見を述べること。

2016 年度役員

(順不同)

代表理事	栞木	典子
専務理事	飯田	秀夫
専務理事	風間	晃
理 事	伊東	千恵
理 事	加藤	千秋
理 事	叶	健兒
理 事	佐藤	均
理 事	鮫島	龍三郎
理 事	柴山	智帆
理 事	鈴木	江理子
理 事	多田	佳明
理 事	福田	和久
理 事	松尾	沢子
理 事・顧問	王	慧槿
監 事	張	正翼
相談役	田村	太郎

2017 年度事業計画

1. 外国にルーツを持つ子どもと家族のための教育事業

1) たぶんかフリースクール

目的

日本の中学校に入れず、学ぶ場や居場所のない子どもたち（学齢超過生と中学卒業生）や、日本語指導を必要とする学齢期の子どもたちに対し、毎日通学し、日本語や教科学習ができる学びの場と居場所を提供する。

事業内容

日本語及び教科学習の学習を保障するとともに、居場所としての役割も果たす。多様化する子どもたちのニーズに応じて、以下の通りクラスを開講する。

対象：主に学齢超過生及び母国で中学を卒業した生徒、日本語指導を必要とする学齢期の児童生徒

内容：日本語・教科の学習、高校進学サポート、居場所の提供

◆たぶんかフリースクール荒川本校

10：00～15：50 1日5時間・週4日

◆たぶんかフリースクール杉並校

10：00～14：50 1日4時間・週5日

事業目標

学齢超過生と中学卒業生、日本語指導を必要とする学齢期の児童生徒の日本語及び教科学習を保障するとともに、居場所を提供する。高校進学を希望する生徒は高校へ、学齢期の子どもたちは公立小・中学校へつなげることを目指す。2017 年度は新宿校の杉並区移転に伴い、新たに杉並校（仮称）が開校する。新しい校舎での授業充実と学ぶ場を必要とする学齢超過の子どもたちの更なる受け入れに努める。

2) 荒川区ハートフル日本語適応指導事業

目的

海外から荒川区内の小中学校に編入学したばかりで、まだ日本語の理解が不十分な児童・生徒が学校生活へよりスムーズに適応ができるよう日本語指導を行う。

事業内容

◆通室による初期日本語指導 9：00～12：00 週4日 2ヵ月

荒川区内の中学校に通う、「ハートフル日本語適応指導（通室による初期日本語指導）」対象生徒（中学1年生～中学3年生）。

内容：初期日本語の指導

◆初期日本語指導終了後の指導

荒川区「ハートフル日本語適応指導（補充学習指導）」対象者（小学5年生～中学3年生）。

内容：初期日本語指導終了後の日本語、または教科の指導

3) 教育・進学相談

当センター及び進路ガイダンス実施時に、教育や進学、学習に関する相談に対応し、外国にルーツを持つ親子へのサポートを行う。

4) 日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス

目的

日本の教育事情に不案内な日本語を母語としない親子のために、日本の高校についての進路・進学・教育制度全般の理解を深めてもらうことを目指す。

事業内容

東京都内を広域対象・地域中心に分け、多言語による逐次通訳の体制を組み、高校進学についての説明会と教育相談を年6回実施する。当センター担当会場での通訳は、英語・中国語・タガログ語・タイ語・ネパール語の5言語を予定。「多文化共生センター東京」「カトリック東京国際センター」「多文化共生教育研究会」「CCS 世界の子どもと手をつなぐ学生の会」「武蔵野市国際交流協会」「八王子国際協会」「IWC」「OC Net」「レガートおおた」「青少年自立援助センター」「東洋大学 SPIRIT」等で実行委員会を構成し、うち2回の事務局を当センターが担う。

事業目標

合計350名程度の日本語を母語としない親子に対して、進路、教育制度についての情報を提供する。ガイダンス後、個別でのフォローを行い、高校進学までのサポートを行う。

5) 親子日本語クラス

目的

外国にルーツを持つ小学生以下の子どもや保護者（大人）を対象に、ボランティアによる日本語と教科の学習支援を通じた居場所づくり

事業内容

◆ボランティアによる学習支援 土曜日：13：00～15：00

ボランティアとの1対1の学習や全体学習を通じて、日本語や教科の学習支援を行う。

◆子どもと保護者の居場所づくり

学習以外でも、同じ状況の子ども同士が交流できる居場所づくりを目指す。また、保護者（大人）同士が交流する居場所づくりも行う。

対象：外国にルーツを持つ小学生以下の子どもと保護者（大人）

小学生以下の子どもを持つ親、「たぶんかフリースクール」生徒の保護者、大人だけの参加者も含む。

事業目標

外国にルーツを持つ小学生以下の子どもと大人毎回 20 人以上を目標に、ボランティアによる日本語や教科の学習支援と居場所づくりを行う。

6) 子どもプロジェクト

目的

外国にルーツを持つ中学生以上の子どもを対象とした、日本語と教科の学習支援と居場所づくりによる力づけ。

事業内容

◆ボランティアによる学習支援 土曜日：15：30～17：30

ボランティアによる教科と日本語の学習支援を週 1 回行う。基本的にはボランティア中心の運営で、1 対 1 による指導を行う。

◆子どもたちの居場所づくり

学習以外でも、同じ状況の子ども同士が交流できる居場所づくりを目指す。

◆対象：外国にルーツを持つ中学生以上の子ども

事業目標

年間 40 人程度の子どもに対して、ボランティアによる教科支援と居場所づくりを行う。

2. 多文化共生に関する情報提供及び人材育成事業

1) 多文化共生に関する情報提供事業

目的

当センターの活動と理念に対しての認知を高め、より多くの方の賛同・支援を得るため、ウェブ、ニュースレターなどの広報媒体を使用し、広報活動を行う。また、外国にルーツを持つ子どもたちの状況や多文化共生への関心を広め、外国にルーツを持つ子ども・保護者に必要な情報を配信していく。

事業内容・目標

・ニュースレター(みんぐる)

当センターの活動報告を中心に、多文化共生に関するテーマの広報誌を年 4 回発行し、各号平均 500 部発行配布する。

・Facebook

Facebook を活用し、当センターの活動報告を頻繁に行う。

・メールマガジン(多文化 NEWS from Tokyo)

当センターの活動内容やイベントなどのメルマガを定期的に配信する。

・ウェブサイト

更新頻度を増やし、団体の日々の活動や重要なお知らせをタイムリーに配信するとともに、情報入手しやすいサイトを目指す。また、保護者や子どもたちに必要な情報を届けられるようにする。

・メーリングリスト(多文化だより等)

活動内容を報告する会員向けメルマガや、多文化関連の情報などをメーリングリスト上に流す。

2) 多文化共生に関する人材育成事業

目的

「多文化共生」及び「年少者の日本語教育」に関連する研修への講師派遣、活動に関わるボランティアやフリースクール講師を対象とした勉強会、ボランティア講座等により、多文化共生社会を担う人材育成を行う。

事業内容・目標

◆講師派遣

国際交流協会や行政などが行う多文化共生関連の研修に対して、25 件程度の講師の派遣を行う。

◆ボランティア講座

多文化共生センター東京の活動やボランティア活動に関心のある方を対象に、月 1 回程度の講座を行う。内容は在留外国人に関する基礎的な知識や当センターの活動内容などを中心に紹介する。

◆ボランティア・講師勉強会

活動に関わるボランティアやフリースクール講師を対象に、多文化共生や指導法等に関する勉強会を行う。

3. 多文化共生に関する調査、研究、提言事業

目的

外国にルーツを持つ子ども達の実態調査を行う。それを基に行政への提言や、関係団体との情報共有を行っていく。

事業内容

卒業生の進路追跡を中心に行っていく。調査のためにチームを立ち上げ、調査を開始する。

2017年度予算

2017年度 活動予算書(案)
2017年4月1日から2018年3月31日まで
特定非営利活動法人多文化共生センター東京
(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1.受取会費		
正会員受取会費	470,000	
賛助会員受取会費	270,000	740,000
2.受取寄附金		
受取寄附金	6,070,000	6,070,000
3.受取助成金等		
受取助成金	12,800,000	12,800,000
4.事業収益		
(1)外国にルーツを持つ子どもと家族のための 教育支援事業収益	23,395,000	
(2)多文化共生に関する情報提供および 人材育成事業収益	548,000	23,943,000
5.その他収益		
受取利息他	1,000	1,000
経常収益計		43,554,000
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費		
給料手当	27,452,000	
通勤費	3,664,000	
法定福利費	1,455,000	
福利厚生費	10,000	
人件費計	32,581,000	
(2)その他経費		
旅費交通費	205,000	
通信運搬費	323,000	
図書印刷費	1,130,000	
地代家賃	1,200,000	
水道光熱費	986,000	
消耗品費	362,000	
アクティビティ費	1,650,000	
ガイダンス費	40,000	
諸謝金	1,376,000	
支払手数料	110,000	
租税公課	874,000	
賃借料	598,000	
通学定期補助	400,000	
雑費	17,000	
その他経費計	9,271,000	
事業費 計		41,852,000
2.管理費		
(1)人件費		
給料手当	4,474,000	
通勤費	343,000	
法定福利費	410,000	
福利厚生費	10,000	
人件費計	5,237,000	

(2)その他経費			
旅費交通費	5,000		
通信運搬費	11,000		
図書印刷費	38,000		
水道光熱費	25,000		
消耗品費	316,000		
研修費	10,000		
修繕費	5,000		
支払手数料	130,000		
租税公課	4,000		
賃借料	22,000		
諸会費	15,000		
渉外費	7,000		
保険料	60,000		
相談料	100,000		
減価償却費	75,000		
雑費	30,000		
その他経費 計	853,000		
管理費計		6,090,000	
経常費用計			47,942,000
当期経常経費増減額			-4,388,000
Ⅲ 経常外収益			
過年度損益修正益	25,000		
経常外収益計		25,000	
Ⅳ 経常外費用			
移転費用(新宿校)	800,000		
経常外費用計		800,000	
税引前当期正味財産増減額			-5,163,000
法人税、住民税及び事業税			120,000
前期繰越正味財産額			27,065,165
次期繰越正味財産額			21,782,165

2017 年度役員

(順不同)

代表理事	朽木 典子
専務理事	飯田 秀夫
専務理事	風間 晃
理 事	伊東 千恵
理 事	加藤 千秋
理 事	叶 健兒
理 事	鮫島 龍三郎
理 事	鈴木 江理子
理 事	多田 佳明
理 事	福田 和久
理 事	松尾 沢子
理 事	東後 真紀子
理 事・顧問	王 慧槿
監 事	張 正翼
相 談 役	田村 太郎



認定NPO法人

多文化共生センター東京

Multicultural Center TOKYO

特定非営利活動法人 多文化共生センター東京

〒116-0011 東京都荒川区西尾久 6-9-7 旧小台橋小 3階

TEL/FAX: 03-6807-7937

Email: tokyo@tabunka.jp